

城山エコミュージアム通信

2012. 6. 15 第12号

ホームページ <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kyouiku/20856/index.html>



エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然、について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



初夏の田んぼ特集



葉山島で行われた田植え風景



葉山島の畑地は殆ど傾斜地で土壌は浅く、普通作物に不向きのため、農家の収入は養蚕に依存し、主食の米は他から購入する状態でした。明治37～8年に不況が農村を襲い、餓死線上のピンチに追い込まれました。この時、斎藤法如和尚はこの窮状打開に苦慮し、二宮尊徳の報徳の教えによらねばならぬ事を解き、第一に人心の奮起を促し、勤儉を奨励し、次に相模川沿岸の荒地を開拓し水田にすることを主張し、他の有志と共に清水河原改田事業に着手、県庁や関係機関に折衝し、補助金の交付の申請、技術指導等寝食を忘れて日夜奔走し、ようやく3町歩の水田を完成させました。その後、大洪水で堤防が決壊し耕地が全部流出するなど難局に出会いましたが関係者の燃ゆるが如き情熱と、倒れて後止むの不断努力によって水田を復元しました。その後、大正6年に事業組織を改変し、皆の協力によりついに8町歩の水田を完成させました。

参考文献：葉山島の歴史編纂委員会『葉山島の歴史』
(城山エコミュージアムのみちⅢ葉山島コースガイドブックより)



さいとうほうによ
斎藤法如

東林寺第34世住職。明治時代愛川町出身で教育と地域の発展に尽力した人でした。



とうりんじ
東林寺

真言宗高野山慈眼院末の小沢山東林寺といい、開雄（1240年没）という僧侶が開山しました。



トップ写真紹介 6月3日葉山島の水田を利用し、大島・向原・小倉・葉山島観光振興推進協議会の主催で田植え体験を行いました。市内外から115名が参加。定員を上回る応募がありました。この体験は葉山島地域の農家の皆さんの指導のもと全5回開催します。

取材協力・お問い合わせ先：城山商工会 042-782-3338

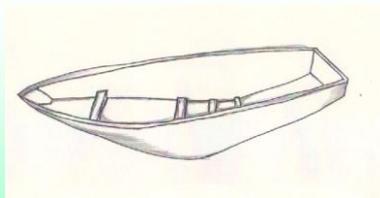


城山検定



テーマ：田んぼにまつわる問題

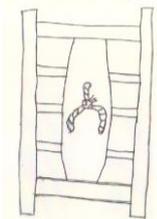
ご好評いただいている城山検定。今回は葉山島にちなんで田んぼについて出題します。



田舟 (たぶね)

問題 全長1.5m程の「田舟」と呼ばれるものですが、何に使われたものでしょう？

- ① 田んぼの近くの川や池などで子供が乗って遊んだ。
- ② 田の神様をまつる祭りで飾り物として使われた。
- ③ 湿田で、田植えのときの苗や刈入れの時、稲を乗せて運んだ。



田下駄 (たげた)

正解は、③です。

旧城山町北部では谷戸田が多くありましたが、泥の深い湿田でコメ作りの作業に難渋しました。田下駄も脚が泥に深く潜らないように工夫されたものの一つです。大切な稲も泥まみれにならないように「田舟」に入れては運びました。



問題 境川の水源域では、6月中旬から7月上旬にかけてゲンジボタルとヘイケボタルを見ることができます。

さて、ホタルの生態について、正しいものは次のどれでしょうか。



- ① 日本に生息するホタルのほとんどは一生陸上で生活する種類である。
- ② ゲンジボタルとヘイケボタルは成虫期だけ発光する。
- ③ ゲンジボタルの発光リズムには地域性がある。



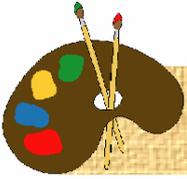
正解は①

世界には約 2,000 種のホタルがいて、その内、約 50 種が日本に生息しています。幼虫期を水中で暮らすホタルは、「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」の他に極わずかで、ほとんどが陸生です。境川源流とその支流の小松川、穴川、緑区葉山島地区の藤木川沿いでは、ゲンジボタルとヘイケボタルを見ることができます。

いま、ホタルたちに異変が…？

緑区中沢には、陸生ホタルの「クロマドホタル」が生息しています。ゲンジボタルとヘイケボタルとも成虫期だけではなく、卵・幼虫・さなぎ期にも発光します。ゲンジボタルの発光間隔には東日本と西日本で違いがあることが知られています。最近の遺伝子解析から、形態や生態による系統分類の下に、さらに複数のタイプがあることが分かってきました。安易なホタルの移動と放流は慎むべきでしょう。





城山探訪

しろやま見どころ紹介

ヤブカンゾウ（ワスレグサ）の咲く道一都井沢一



ヤブカンゾウ

都井沢から三本松に抜ける道が砂利道だったころ、暑い夏の日、道端に咲くヤブカンゾウの強烈な橙色の花の記憶があります。春先に地面に若葉を盛んに出し、どこにでも生えているヤブカンゾウですが、あまり花は注目されていません。ニッコウキスゲも同じ仲間、ユリと異なり、花は一日で萎んでしまい、次々と新しい花が咲く性質があります。これらを元に品種改良されたデイ・リライ（または学名のヒメロカリス）は、欧米ではその美しさと丈夫さから、たいへん人気があります。昔は、道端や土手でよく花を見られたヤブカンゾウは、近年、夏草と一緒に刈り取られてしまい、花をなかなか見ることができません。初夏の日差しに負けない力強い橙色のヤブカンゾウが咲く夏の風情を懐かしく感じます。

ご存知ですか？

古民具にふれてみよう！ 城山郷土資料収蔵庫

身近なところでタイムスリップ

しろやまきょうどしりょうしゅうそうこ



施設内には、農具、養蚕、生活道具等、たくさんの資料が保管されています

現存する「田舟」はほかの民具とともに川尻小学校内の城山郷土資料収蔵庫に保管されています。

収蔵品は、秋と春の城山公民館まつりにあわせて、一般公開されています。「田舟」以外にも色々な民具が保存されていて、昔の人々の工夫の跡がしのべれます。ぜひ一度足を運んでみてください。

尚、今回の出題は展示物の説明を編集して使わせていただきました。



田舟・田下駄

収蔵品の一例

農具・養蚕の道具のほか、生活用品や消防ポンプ等も展示されています。



はたおり機



消防ポンプ



郷土資料収蔵庫に関するお問い合わせは、生涯学習課城山教育班（042-783-8184）まで

Information

城山エコミュージアムを育てる会の活動を紹介

活動レポート

「相原の歴史をさぐる会」との交流がはじまりました！

「相原の歴史をさぐる会」は相原公民館を拠点として緑区相原地区の歴史を幅広く調査研究をしています。今年2月にあじさい会館で開催された第37回相模原市文化財展に出展したご縁で、城山エコミュージアムの活動と共通し、隣どうしの地区ということもあり古道部会との交流が始まりました。

古道部会では、ご近所相原地区を学ぼうと平成24年4月21日に「相原地区文化財めぐり」を開催、相原の歴史をさぐる会の方々に案内をしていただきました。続いて5月30日、同会の方々を城山に招き、相原地区と関係の深い原宿用水跡から境川を遡り、大戸から大山みちをたどるツアーを開催しました。両企画とも午前9時から午後3時までと、時間をかけて説明と資料の確認が行われ、充実した企画となりました。

原宿用水を作ったことにより当麻田の水田耕作ができなくなったこと、後に昭和に入って再開田をし、そして、開田記念碑に加藤武雄の撰文となる碑文が刻されているなど、相原地区と城山地区との関係が興味ぶかく印象に残りました。

また、自分の住んでいる地区を大切にする者同士のきずなができて、今後も古道部会の活躍が期待されます。



大戸観音の前にて

催しもの EVENT



ALWAYSの時代～昭和30年代のしろやまの様子がよみがえります

写真展『あの頃、あの時2』

入館料
無料

— 旧城山町にみる“三丁目の夕日” —

昭和30年代からの城山地域の様子を、映画『ALWAYS 三丁目の夕日』の原作、『三丁目の夕日夕焼けの詩』の都会の風景と対比しながら展示します。

開催日時：平成24年7月9日(月)～10月19日(金) 午前9時30分～午後4時30分

休館日：土曜日、日曜日、祝日 および 8月6日～10日、9月14日
ただし、7月15日(日)、29日(日)、8月5日(日)、19日(日)は開館

主催：東京家政学院生活文化博物館

会場：東京家政学院大学生活文化博物館(町田キャンパス)



一緒に活動しませんか？

城山エコミュージアムを育てる会のメンバーは、地域の昔の写真、古道、自然、通信づくりなど、それぞれの興味にあわせて活動しています。高校生以上の方ならどなたでも参加可能！まずは見学してみませんか？詳しくは右記まで。ご連絡をお待ちしています。

企画/作成：城山エコミュージアムを育てる会

発行：相模原市教育委員会生涯学習課城山教育班

問い合わせ：TEL：042-783-8184【直通】

FAX：042-782-1290

この通信のバックナンバーは、ホームページ(パソコン)からもダウンロードできます。携帯でも活動内容をご覧いただけます。

